

1933

書誌第6號A

朝鮮沿岸水路誌

第1卷

總記、航路記

朝鮮東岸及南岸

昭和8年1月刊行

水路部

清水ハ井戸 6 箇所アリ飲用ニ適スルモ船舶ヘノ供給能力ナシ。

鬱陵島及竹島

鬱陵島〔松島〕(海圖 306 分圖) 龍湫岬ノ 69 度約 73 哩ニ在ル周圍 22 哩ノ半圓形島ニシテ全島數多ノ尖銳ナル圓錐形山ヨリ成リ樹木鬱茂ス、然レドモ其ノ海岸附近ハ住民ノ増加スルニ從ヒ或ハ之ヲ燒却シテ耕地ヲ開キ或ハ濫伐セシヲ以テ處々ニ秃山ヲ見ル◎島ノ中央部即チ北緯 37 度 30 分、東經 130 度 52 分ノ處ニハ高サ 985 米ノ 1 峯聖人峯(羅里山)アリテ巍然聳立ス (第 86 頁對面對景圖第 19, 20, 21, 22, 23 及 24 參照)。

島ノ沿岸ニハ數多ノ岩嶼アリテ其ノ北岸及東岸ニ在ル數岩ハ高サ 61 乃至 122 米以上ニ達ス◎島ノ北東角ニ近ク 3 箇ノ列岩アリ三兄弟岩ト稱シ共ニ柱狀ヲ成ス、其ノ最大岩ハ中央ニ在リテ高サ 109 米アリ内地人ハ此ノ列岩ヲ三本立ト稱ス。

島ノ北岸ノ約中央ニ在ル孔岩ハ之ヲ貫通セル天然ノ弓形門アリテ高サ 69 米ナリ又此ノ岩ノ殆ド對岸ニ高サ 452 米ノ秃兀タル棒糖形ノ花崗石山アリ錐山ト稱シ頗ル顯著ノ目標タリ(第 86 頁對面對景圖第 23 參照)。

島ノ北西角ヲ待風坎(タイフウカン)(黄土金末)ト稱シ高サ 155 米ニシテ尖岩頂ヲ成ス◎島ノ南角ナル間嶺末ハ高サ 197 米ナル崖角ニシテ内地人ハ之ヲ圓見埼ト稱ス、此ノ角ノ南方 2.5 哩ノ處ニ水深 7.7 米ノ 1 暗礁アリ◎杏南末(沙空南末)ハ東岸ノ中央ニ斗出セル 1 角ニシテ高サ 118 米アリ (第 86 頁對面對景圖第 24 參照)。

島ノ周圍ハ險崖ニシテ急深ナリ、200 米等深線ハ概ネ距岸 1 哩附近ニ在リ◎島周圍々ニ少許ノ磯濱アルヲ以テ靜穩ナルトキ短舟ヲ著クベシト雖モ其ノ他ノ處ハ攀躋シ難シ。

竹島(竹嶼)ハ島ノ東岸ヲ距ル 1 哩餘ノ處ニ在リ周圍陡峻其ノ頂扁平ニシテ大樹密生ス、高サ 129 米。

雙頂礁 竹島ノ頂ヨリ 4 度 1.5 哩ニ在リ水深 0.9 米及 1.3 米ニシテ荒天ノ際ハ破浪ス◎此ノ礁ヨリ孔岩ヲ眺ムレバ正ニ兄弟岩中ノ北西岩ト鬱陵島ノ北東岸トノ中央ニ當リ其ノ方位ハ 257 度ナリ。

第 86 頁對面

鬱 陵 島 共 ノ 1

50°50 哩



第 19

鬱 陵 島 共 ノ 2

87°38 哩



第 20

鬱 陵 島 共 ノ 3

137°44 哩



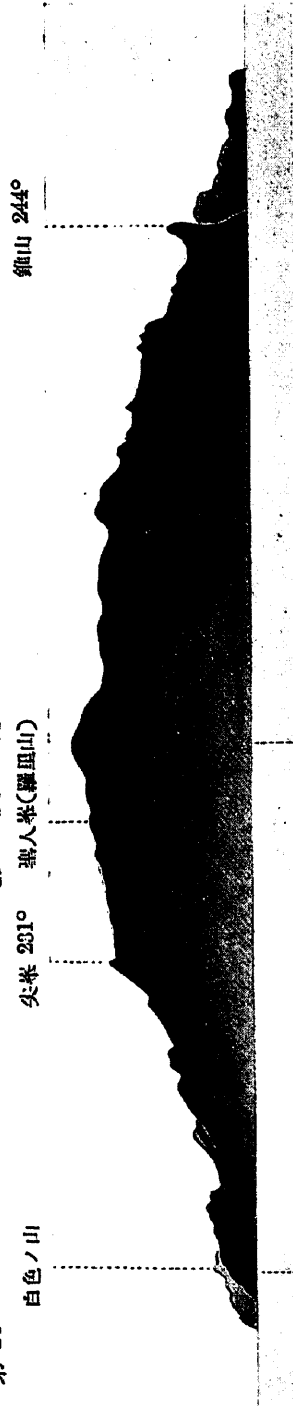
第 21

嶮 陵 島 共ノ 4



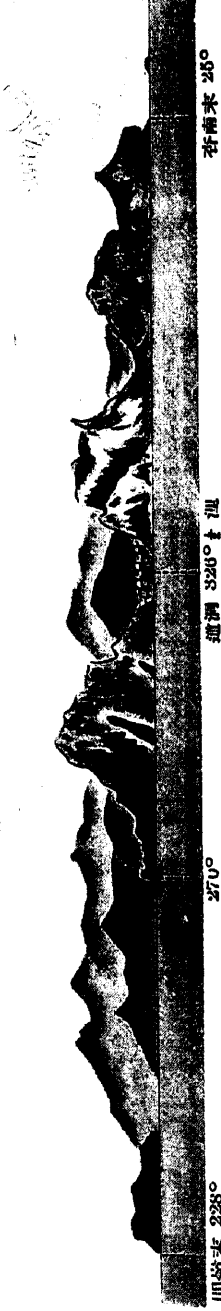
第 22

嶮 陵 島 共ノ 5



第 23

嶮 陵 島 共ノ 6



第 24

氣象 本島=於テハ寒暑共=酷烈ナラズ、毎年 4 月至 9 月間ハ偏南風多ク、10 月至 3 月間ハ偏北風多シ、殊= 11 月頃ハ北西風強吹ス、6 月下旬至 7 月下旬間=霧ノ發生ヲ見ルコトアリ◎降雪ハ 10 月下旬至 3 月下旬=シテ山頂=ハ 5 月尙積雪ノ存スルコトアリ◎本島ハ極メテ健康=適シ天然痘ノアリシコトナク土民ハ之ヲ水質ノ佳良ナル=歸スト謂フ。

潮流及海流 明治 41 年ノ驗測=依レバ本島附近=於テハ潮流ト謂フベキモノヲ認メズ、唯其ノ速度 0.8 節以下ノ偏東海流アルヲ驗センノミ但シ天氣風向=因リテ其ノ速度及方向不定ナルコトアリ。

泊地 本島中船舶ノ假泊=適スルハ僅=東岸=於テ沙洞、道洞及芋洞ノ 3 箇所=過ギズ。

沙洞泊地ハ間巖末ノ 45 度 1.5 哩=在リ、能ク西方ヨリ北方=至ル間ノ風ヲ保障ス。

芋洞泊地ハ杏南末ノ北北西方 7 鏈=在リ、水深適度沙底=シテ西方及南方風ヲ保障ス◎芋洞泊地ノ北北東 2.5 鏈=青島(北岩)ト稱スル岩嶼アリ、尖頂=シテ高サ 42 米、邦人ハ之ヲ兜島ト謂フ。

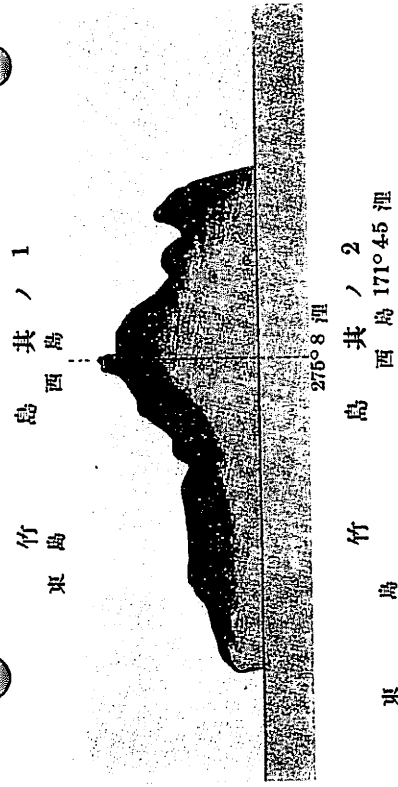
目標 北方ヨリ本島=至ランニハ聖人峯(羅里山)(高サ 985 米)ハ最モ顯著=シテ接近スレバ 918 米山及錐山(高サ 452 米)等ノ尖峯聳立シ竹嶼亦遠望顯著=シテ三兄弟岩、孔岩、竹岩等柱狀ヲ成シテ海岸=屹立シ奇形ヲ呈ス◎觀音島(鳳頂島)(高サ 108 米)ノ北東方約 1.1 哩=雙頂礁アリ◎芋洞泊地=入ランニハ高サ 723 米ノ尖峯ハ最好目標ナリ、青島亦好目標ナリ。

住民 本島ハ行政上 慶尙北道=屬シ 3 面 9 洞=分タル◎人口 11,231 (昭和 5 年 10 月 1 日國勢調査)。

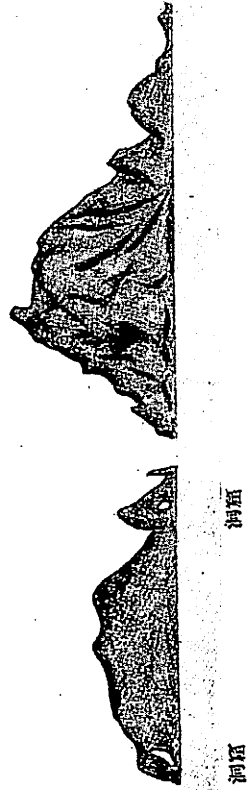
道洞港 間巖末ノ北東方 2.5 哩=位シ北乃至西ノ風ヲ保障スレドモ東乃至南ノ風強吹スルトキハ碇泊困難ナリ◎海底ノ傾斜急=シテ特=距岸 800 米=シテ水深 182 米アリ、底質沙又ハ岩=シテ良好ナル錨地トハ言ヒ難シ◎距岸 250 乃至 280 米、水深 32 乃至 36 米ノ處= 1 等驅逐艦 1 隻ヲ漸ク錨泊センシメ得ベシ、底質岩=シテ海底ノ傾斜急ナルヲ以テ走錨=對シ注意ヲ怠ルベカラズ但シ錨海底=拘ル憂ナシト謂フ(第 86 頁對面對景圖第 24 參照)。

10

20



第 26



第 27



其ノ他ハ線條ノ左右各 182 米以內ヲ以テ線路區域ト指定ス。

竹島(タケシマ) 此ノ島ハ日本海上ノ 1 小群嶼ニシテ島根縣隠岐島前ヨリ 大約 86 哩、鬱陵島ヨリ東南東方約 50 哩ニ位シ幅 1 鐘餘ノ狹水道ヲ隔テテ東西ニ相對スル 2 島ト其ノ周圍ニ碁布スル幾多ノ小嶼トヨリ成ル(第 89 頁對面對景圖第 25 及 26 參照)。

其ノ西方島ハ海面上高サ約 157 米ニシテ棒糖形ヲ成シ東方島ハ較低ク其ノ頂上ニ平坦ナル地アリ又周圍ノ諸小嶼ハ概ネ扁平ノ岩ニシテ僅ニ水面ニ露出シ其ノ大ナルモノハ優ニ數十疊ヲ敷クニ足ルベシ。

2 島共ニ全部瘠瘦ノ秃岩ニシテ海風ニ暴露シ 1 株ノ樹木ナク東方島ニ於テ僅ニ野草ヲ生ズルノミ、又島岸ハ斷崖絶壁ニシテ軟質ノ石層ヨリ成リ奇觀ノ洞窟多ク殆 10

ド攀躋スベカラズ而シテ此等ノ洞窟及小嶼ハ海驢ノ群棲所タリ。此ノ島ノ附近ハ水深ク軍艦對馬ハ東方島ノ南端ヨリ北西方約 9 鐘ノ處ニ於テ 106 米ノ水深ヲ測得セリト謂フ、然レドモ此ノ島ハ其ノ位置日本海ヲ航上スル船舶ノ航路ニ近キヲ以テ夜間ハ危險ナリトス。

島上ノ平地 島上平地ニ乏シク 2 島間ノ兩側ニ狹隘ナル平坦ノ礫地ニ、三箇所アルモ皆海濤ノ侵襲ヲ免レズ◎東方島ハ其ノ頂ニ平坦ナル地アレドモ之ニ登ルノ徑路ナク唯島ノ南端ニ於テ北西風ヲ遮蔽スル 10 乃至 13 平方米ノ小平地アルノミ◎西方島ハ其ノ東西ニ山崖アリテ其ノ上半部殆ド直立スレドモ下半部ハ傾斜稍緩ナルヲ以テ其ノ半迄到達スルヲ得ベク其ノ附近ノ堅岩ヲ開鑿セバ東風ノ外諸風ヲ遮蔽スベキ平地ヲ得ルナランカ◎島上ニハ前記ノ如ク家屋ヲ建築スベキ地極 20

メテ乏シク明治 37 年 11 月軍艦對馬ノ此ノ島ヲ實査セシ際ハ東方島ニ漁夫用ノ菰葺小屋アリシモ風浪ノ爲甚シク破壊シアリシト謂フ。毎年夏季ニ至ラバ海驢獵ノ爲鬱陵島ヨリ渡來スルモノ數十名ノ多キニ及ブコトアリ彼等ハ島上ニ小屋ヲ構ヘ毎回約 10 日間假居スト謂フ。

淡水 西方島ノ南西隅ニ 1 洞窟アリ其ノ天蓋ヲ成セル岩石ヨリ滴出スル水ハ其ノ量稍多ケレドモ雨水ノ滴下ニ等シキヲ以テ汲取ニ困難ナリ◎其ノ他山頂ヨリ山腹ニ沿ヒテ數箇所ニ滴瀝スル水及湧泉アレドモ其ノ徑路ハ海驢ノ糞尿ニ屢汚染セラレテ一種ノ惡臭ヲ放チ到底飲料ニ適セズ◎海驢獵ノ爲渡來スル漁夫ハ島中ノ

水ヲ汲取シテ煮炊ノ用ニ供スレドモ茶水ハ他ヨリ持來スルモノヲ用フト謂フ。

位置 竹島ノ東方島ノ南端ハ明治 41 年ノ測定ニ據レバ北緯 37 度 14 分 18 秒、東經 131 度 52 分 33 秒ニ在リ。

竹邊灣至水源端

海岸 龍湫岬ヨリ水源端ニ至ル約 110 哩間ノ海岸ハ屈曲甚ダ少ク稀ニ港灣ノ形狀ヲ成スモノアレドモ概ネ南東及東方ニ開キ直ニ海洋ニ暴露セルヲ以テ良好ナル錨泊地ヲ得ル能ハズ◎此ノ海岸ハ險崖多ク概ネ急深深水ナレドモ又低丘沙濱々々其ノ間ニ交ハリ島嶼、離岩及險礁ニ至リテハ其ノ北半部ニ少ク存在セルノ外極メテ少ク距岸 1.3 哩以外ニハ皆無ナリ◎此ノ沿岸内陸ノ山脈ハ概ネ海岸線ニ並行シテ北走シ高山峻嶺重疊シテ殆ド斷絶スル處ナク多クハ松杉鬱茂セルモ時ニ奇巖ノ突兀トシテ冲天セルモノアリ其ノ狀眞ニ偉觀ヲ極ム、然レドモ其ノ海岸ニ近キ丘陵ハ概ネ秃山ニシテ不毛ノ地多キモ細流アリテ谿谷ヲ成ス處ニハ必ズ綠草及耕地アリテ牛ヲ飼ヒ且米、麥及大豆等ノ雜穀ヲ産ス。

江原道沿岸ノ氣候及風候 (地方民ノ言ニ依ル) 1 月ハ常ニ偏西風吹キ降雪ニ加ハリ海上波荒シ◎2 月ハ偏北西風強ク沙塵ヲ捲上げ風止メバ降雪ト爲ル、此ノ月ハ 1 年中降雪最モ多ク寒氣強ク且波荒キ月ナリ◎3 月モ偏北西風強ク且波荒ク降雪減ズ◎4 月上旬ニ於テハ偏北西風強吹スレドモ爾後次第ニ其ノ風向南轉シ下旬頃ニハ南東風ト爲ル◎5 月ハ氣候最モ溫和風波靜穩ニシテ製鹽業此ノ期ニ盛ナリ、而シテ海霧漸ク來リ始ム◎6 月ハ偏南、偏南東及偏北東ノ諸風吹止定マナク海霧ノ襲來屢ニシテ中旬頃ヨリ霖雨頻ニ至リ製鹽業ハ爲ニ休止ノ姿ト爲ル◎7 月ハ 6 月ト略同ジキモ 1 年中降雨最モ多キ月ナリ◎8 月ハ月上旬ニ於テ好天氣多ケレドモ下旬ニハ天氣變ジ易ク毎年偏北東或ハ偏南東ノ風雨アリテ時々大暴風雨ト爲ルコトアリ◎9 月ハ風向不定ニシテ高山頂ハ常ニ雪ニ掩ハルレドモ降雨少ク製鹽業起リ又漁業期タリ◎10 月ハ略 9 月ニ同ジ◎11 月ハ偏北西ノ風ト爲リ天氣不良ニシテ漁業ハ休止ト爲ル又大風起リテ家屋ヲ吹飛バスコトアリ降雪始ル◎12 月ハ偏西ノ強風起リ波浪漸ク高ク海上不穩ナリ。

1 年中概シテ偏北東風吹クトキハ曇天ナルヲ常トシ雨ヲ伴フ霧多キハ 5 月、6 月、7 月ノ 3 箇月ニシテ就中 6 月最モ多シ。

江原道ノ海岸ハ多年此ノ地方ノ水路ニ暗熟セル我ガ潜水漁者ノ言ニ依ルニ朝鮮東岸中波浪最モ高キ處ニシテ 10 月ヨリ翌年 3 月ニ至ル間ハ北風毎ニ巨浪アルヲ常トス。

潮流及海流 明治 41 年 7 月及 8 月ノ兩月間ニ於ケル大小兩潮期ノ驗測ニ依レバ此ノ海岸ニ於テハ潮流ハ殆ド之ヲ認メズ海水ノ流動ハ主トシテ海流ナレドモ其ノ方向速度共ニ一定セズ而シテ其ノ偏北西流ノ多キヨリ推セバ夏季ノ間ハ南西信風ノ爲ニ偏北西ニ向フ表面流(黑潮)ヲ南方ヨリ送り來ルモノノ如ク其ノ流速度約 1 節ニ及ブコトアリ、然レドモ此ノ海流ハ地方風ノ爲ニ左右セラレテ其ノ流向流速共ニ一定ヲ缺キ或ハ全ク反對ニ流ルルコトアルベシ◎第 1 編第 13 頁參照。

大正 15 年 9 月 20 日軍艦長鯨ハ元山至竹邊沖間ノ航路(距岸 5 乃至 10 哩)ニ於テ當時風向東、風力 1 乃至 2 ナリシガ陸岸ニ沿ヒ平均毎時 1.5 節ノ南向流ヲ感ジ注文津、竹邊間ニ於テハ特ニ顯著ナリシヲ報告セリ◎注文津港及水源端沖ニ於ケル朝鮮總督府水産試驗場ノ調査ハ下記ノ如ク前者ハ異常ノ場合ニ屬シ後者ハ恐ラク普通ノ場合ナルベシ。

地 點	年 月	平均表層海流	
		流 向	流 速
注文津燈臺東 4 哩	大正 14 年 11 月	337°	0.7
同上東 5 哩	大正 15 年 11 月	ナシ	
水源端北方 4 哩	大正 13 年 9 月	3	0.2
同上	大正 14 年 11 月	300	0.5
同上	大正 14 年 12 月	350	0.4
水源端正東 2.6 哩	大正 15 年 11 月	12	0.1

鷹峯山 龍湫岬ノ 275 度 9.5 哩ニ在リ高サ 1,003 米ニシテ連山中ノ 1 秀峯タリ◎全山鬱黑ニシテ尖頂ヲ有シ顯著ナリ、東方ヨリ竹邊灣附近ニ至ラントスル船舶ノ最好目標タリ。

烽火峙(烽燧末) 龍湫岬ノ 329 度 5.3 哩ニ在ル高サ約 116 米、暗黑色ノ 1 丘陵ニシテ海ニ面シ斷崖絶壁ノ 1 角ヲ成ス◎此ノ角ノ頂上ニハ往時烽火臺ノ築石ア

關係水路誌ノ沿革

1. 朝鮮沿岸ニ關スル我ガ國最初ノ水路誌ハ寰瀛水路誌第 2 卷ニシテ明治 16 年 4 月刊行ニ係ル。
2. 明治 20 年 1 月寰瀛水路誌第 2 卷第 2 版刊行。
3. 明治 27 年 11 月寰瀛水路誌第 2 卷中ノ第 1 編至第 4 編即チ朝鮮全岸ニ關スル記事ヲ分離改版シ朝鮮水路誌トシテ刊行ス。
(1894)
4. 明治 32 年 2 月朝鮮水路誌第 1 改版刊行。
(1899)
5. 明治 40 年 3 月朝鮮水路誌第 2 改版刊行。
(1907)
6. 明治 44 年 12 月朝鮮水路誌ヲ改版シ日本水路誌第 6 卷ト改稱刊行ス。
7. 大正 6 年 3 月日本水路誌第 6 卷ヲ日本水路誌第 10 卷ト改稱ス。
8. 大正 9 年 4 月日本水路誌第 10 卷中第 1 編至第 3 編即チ朝鮮ニ關スル總記、朝鮮東岸及南岸ノ記事ヲ改版シ日本水路誌第 10 卷上ト改稱刊行ス。
9. 大正 9 年 7 月日本水路誌第 10 卷中第 4 編及第 5 編即チ朝鮮西岸ニ關スル記事ヲ改版シ日本水路誌第 10 卷下ト改稱刊行ス。
10. 昭和 5 年 12 月日本水路誌第 10 卷上ヲ朝鮮沿岸水路誌第 1 卷ト改稱シ日本水路誌第 10 卷下ヲ朝鮮沿岸水路誌第 2 卷ト改稱ス。
11. 昭和 8 年 1 月朝鮮沿岸水路誌第 1 卷ヲ改版刊行ス。
12. 昭和 9 年 8 月朝鮮沿岸水路誌第 2 卷ヲ改版刊行ス。